

**平成28年度全国学力・学習状況調査
柏原市における結果の概要について**

全国学力・学習状況調査の概要(文部科学省HPより)

1. 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容

教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題

生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査

柏原市の結果からみる今後の重点課題について

【教育委員会がすべきこと】

- ・「書く力」の育成をねらった取組の推進。
- ・幼小中一貫教育の推進。
- ・家庭学習についての啓発。
- ・スマートフォンやゲーム等に関する研修の実施。

【学校がすべきこと】

- ・書かせる指導の見直し。
- ・基礎基本の徹底。
- ・家庭学習を促す取組みの推進。
- ・スマートフォンやゲーム等についての啓発。

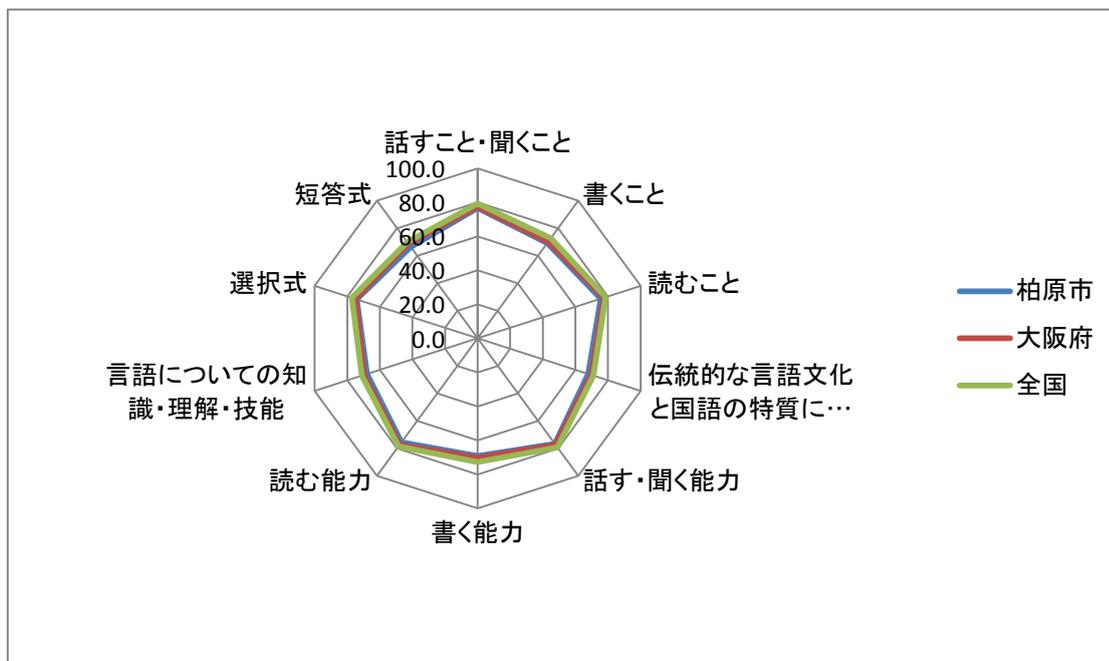
【家庭がすべきこと】

- ・基本的な生活習慣の定着。
- ・家庭学習習慣の定着。
- ・スマートフォンやゲーム等についてのルール作り。

各教科別の調査結果の概要

①小学校国語A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	69.6
大阪府(公立)	71.3
全国(公立)	72.9



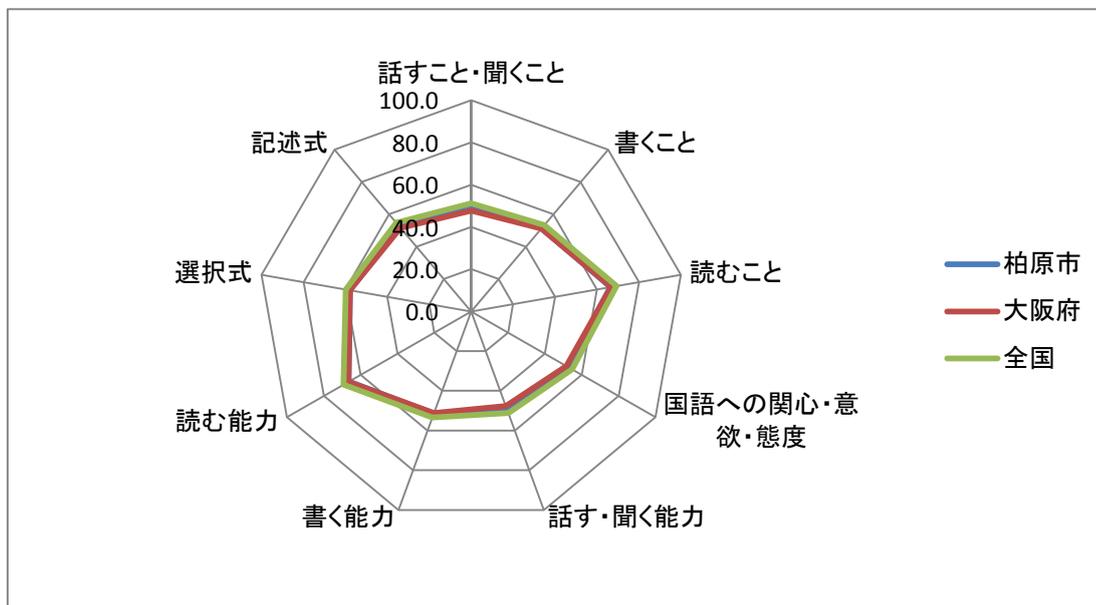
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1
	書くこと	2
	読むこと	2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0
	話す・聞く能力	1
	書く能力	2
	読む能力	2
	言語についての知識・理解・技能	10
問題形式	選択式	6
	短答式	9
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られます。漢字の読み書きは、概ね良好ですが、ローマ字の読み書きにおいては課題があります。

②小学校国語B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	55.7
大阪府(公立)	55.4
全国(公立)	57.8



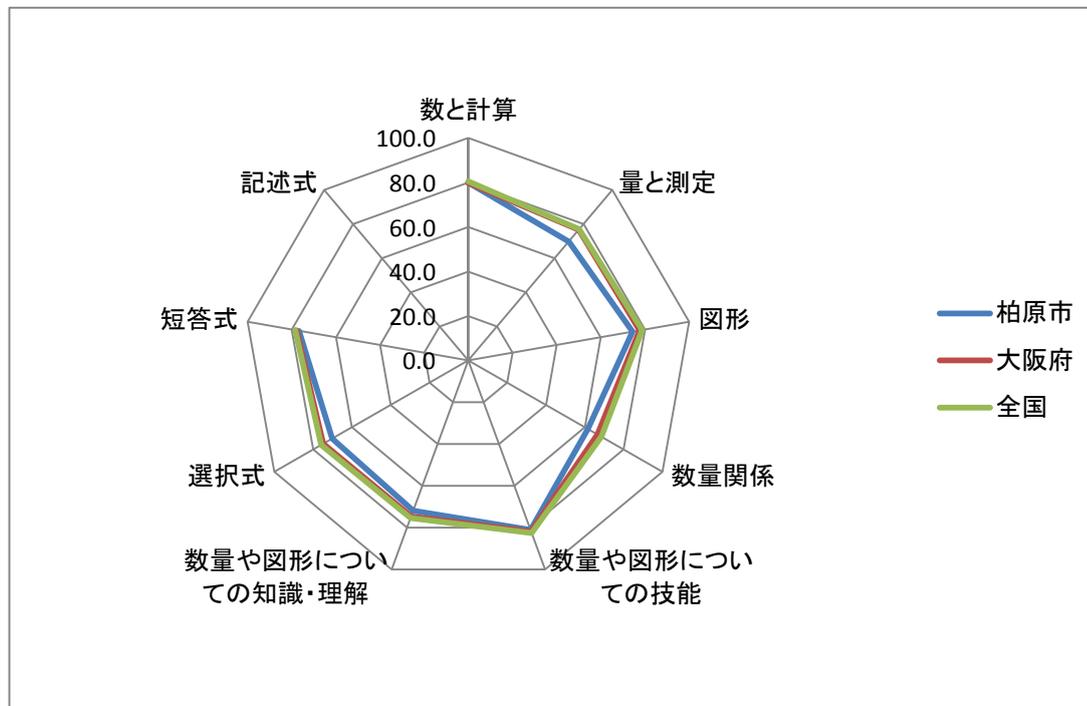
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3
	書くこと	6
	読むこと	3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4
	話す・聞く能力	3
	書く能力	6
	読む能力	3
	言語についての知識・理解・技能	0
問題形式	選択式	6
	短答式	0
	記述式	4

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。「書くこと」「読むこと」ともに課題が見られます。特に、記述式の文章を書く問題は無解答率、誤答率ともに高くなっています。目的に応じて文章を書くことや、複数の文章や図表などから必要なものを選んだり組み合わせたりすることに課題が見られます。

③小学校算数A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	74.7
大阪府(公立)	76.9
全国(公立)	77.6



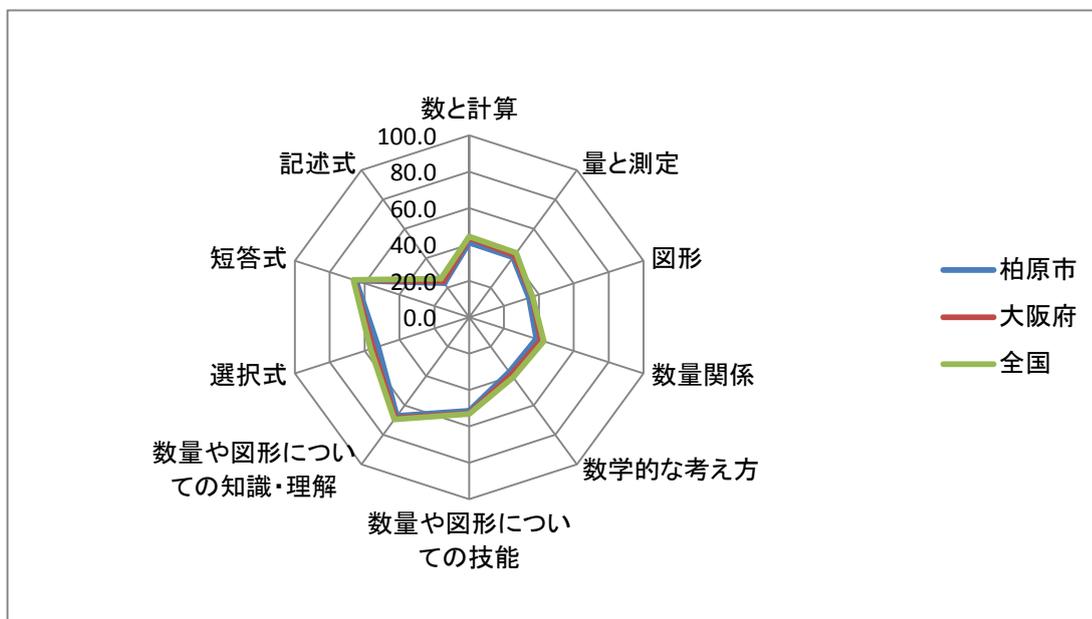
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域	数と計算	10
	量と測定	2
	図形	2
	数量関係	3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0
	数学的な考え方	0
	数量や図形についての技能	5
	数量や図形についての知識・理解	11
問題形式	選択式	5
	短答式	11
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。基礎的な計算については概ね良好ですが、「量と測定」「数量関係」には課題が見られます。特に、基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえることに依然として課題があります。また、構成要素に着目して図形を見ることに課題があります。

④小学校算数B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	44.0
大阪府(公立)	45.8
全国(公立)	47.2



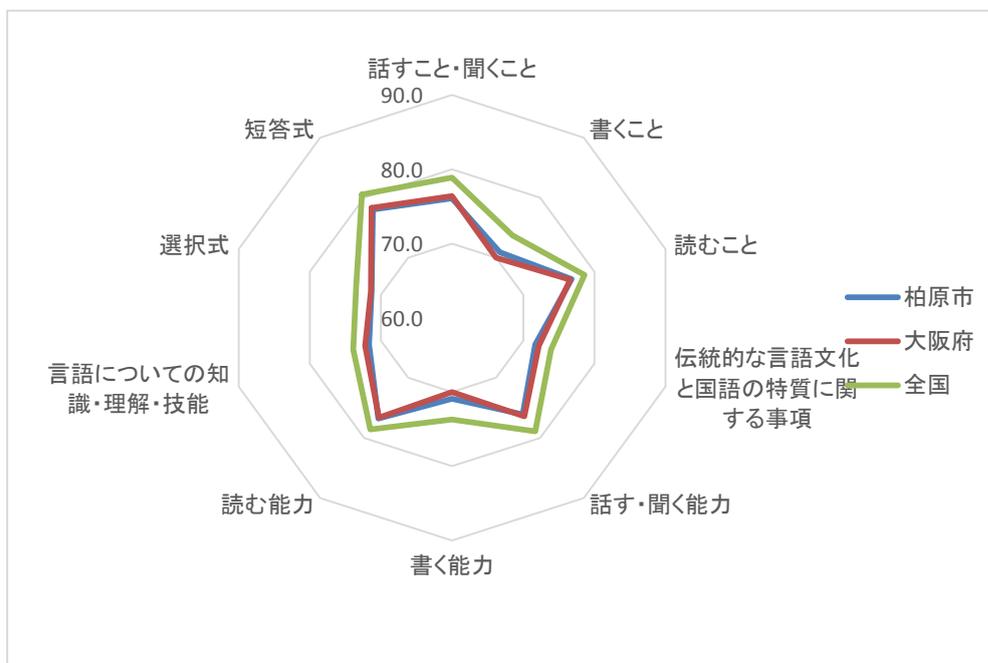
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域	数と計算	6
	量と測定	5
	図形	3
	数量関係	6
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0
	数学的な考え方	9
	数量や図形についての技能	2
	数量や図形についての知識・理解	2
問題形式	選択式	5
	短答式	3
	記述式	5

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。問題形式別にみると「記述式」に課題が見られます。特に、グラフから読み取ることができる情報を根拠にして説明することや、問題場面と式を関連付けて式の意味を解釈したり、解釈したことを記述したりすることに課題が見られます。

⑥中学校国語A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	73.3
大阪府(公立)	73.5
全国(公立)	75.6



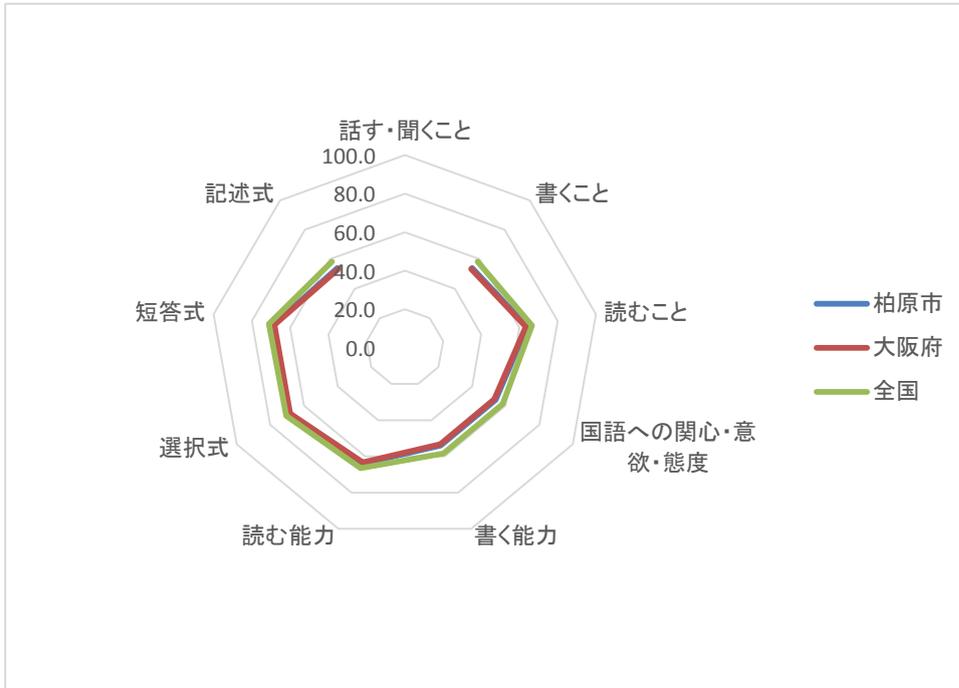
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6
	書くこと	4
	読むこと	6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0
	話す・聞く能力	6
	書く能力	4
	読む能力	6
	言語についての知識・理解・技能	17
問題形式	選択式	23
	短答式	10
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。「書くこと」「書く能力」に課題が見られます。特に、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことや、伝えたい事柄について根拠を明確にして書くことに課題が見られます。

⑦中学校国語B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	64.0
大阪府(公立)	63.3
全国(公立)	66.5



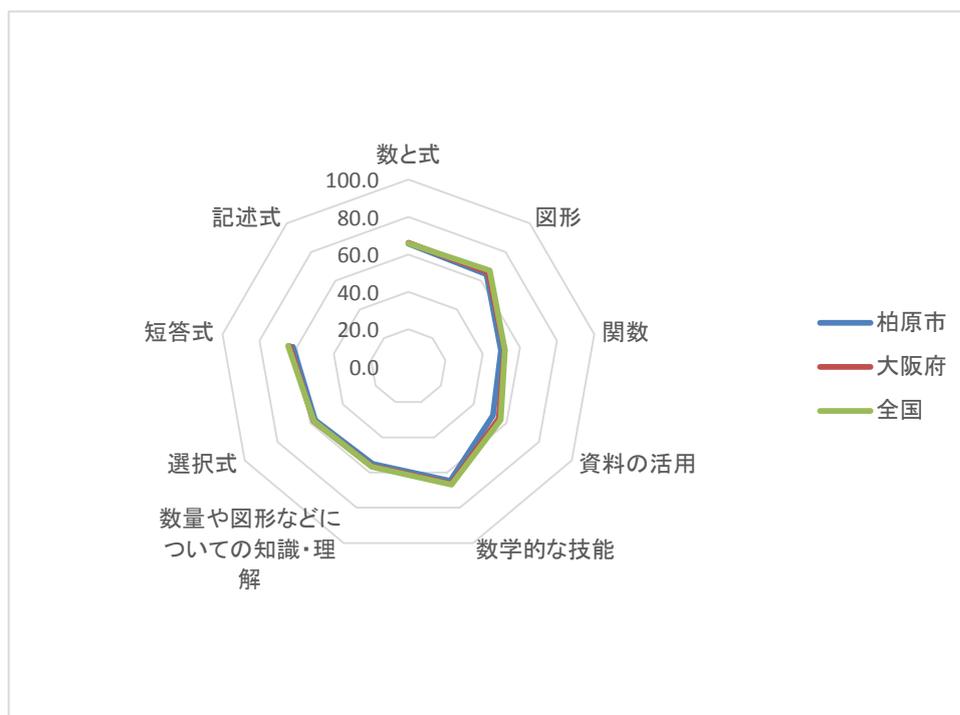
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0
	書くこと	3
	読むこと	9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する	0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3
	話す・聞く能力	0
	書く能力	3
	読む能力	9
	言語についての知識・理解・技能	0
問題形式	選択式	5
	短答式	1
	記述式	3

領域・観点・問題形式の状況は概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。すべての項目で府平均を上回っています。効果的な資料を作成し、活用して話すことや、表現の工夫について自分の考えをもつことについては相当数の生徒ができています。一方、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られます。

⑧中学校数学A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	60.2
大阪府(公立)	61.7
全国(公立)	62.2



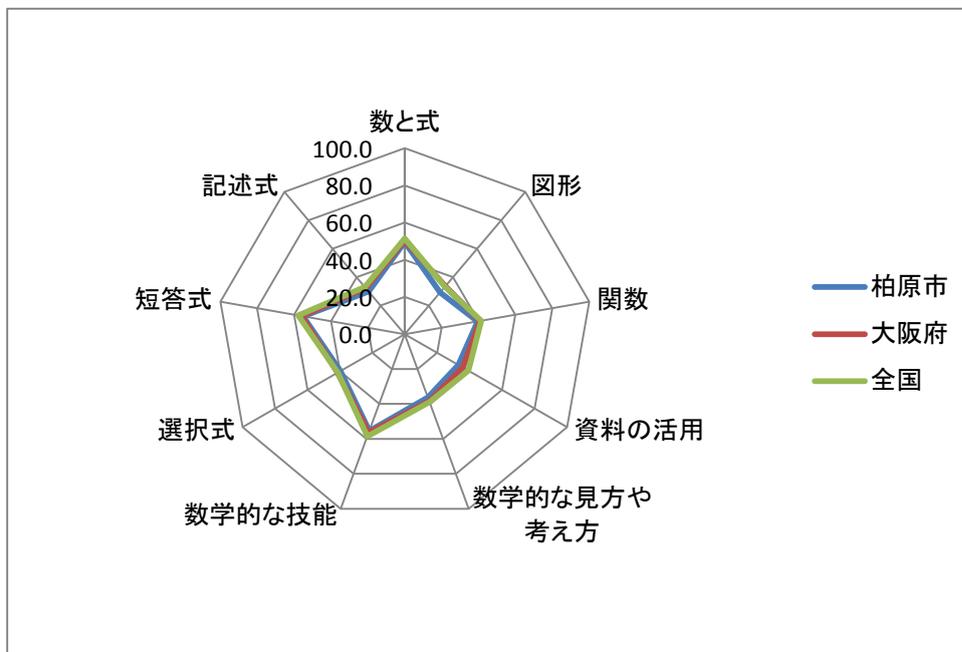
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	数と式	12
	関数	12
	資料の活用	8
	資料の活用	4
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0
	数学的な見方や考え方	0
	数学的な技能	19
	数量、図形などについての知識・理解	17
問題形式	選択式	13
	短答式	23
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は、概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。特に「資料の活用」に課題が見られます。自然数の意味の理解、証明の必要性と意味の理解、資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題が見られます。

⑨中学校数学B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	41.3
大阪府(公立)	43.1
全国(公立)	44.1



各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	数と式	6
	図形	2
	関数	5
	資料の活用	2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0
	数学的な見方や考え方	11
	数学的な技能	4
	数量、図形などについての知識・理解	0
問題形式	選択式	2
	短答式	6
	記述式	7

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・大阪府と同じ傾向が見られます。「図形」「資料の活用」「記述式」に課題が見られます。図形の性質について筋道を立てて証明することや与えられた式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明することや、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

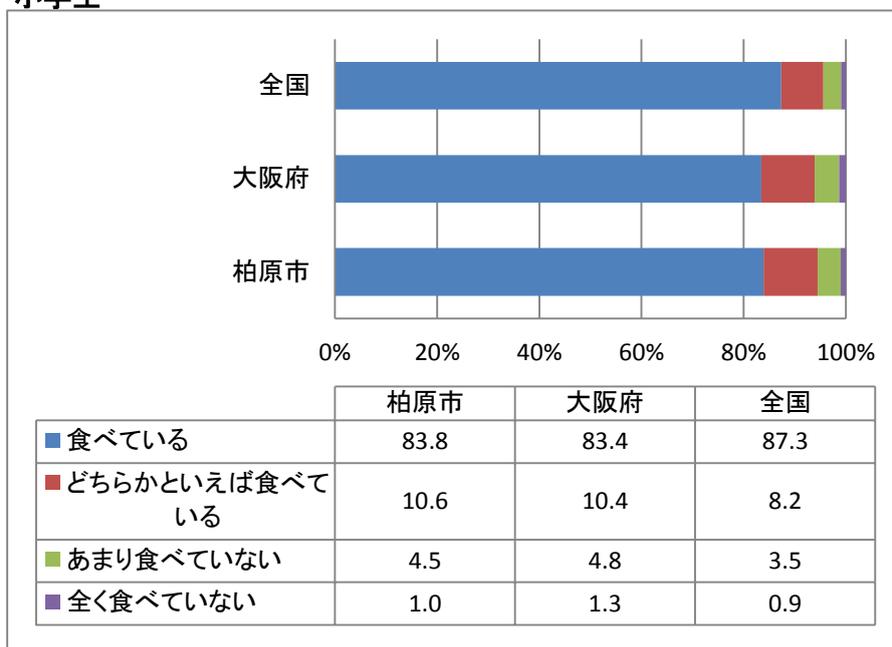
生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果の概要

生活習慣に関する質問紙調査結果の概要

①朝食

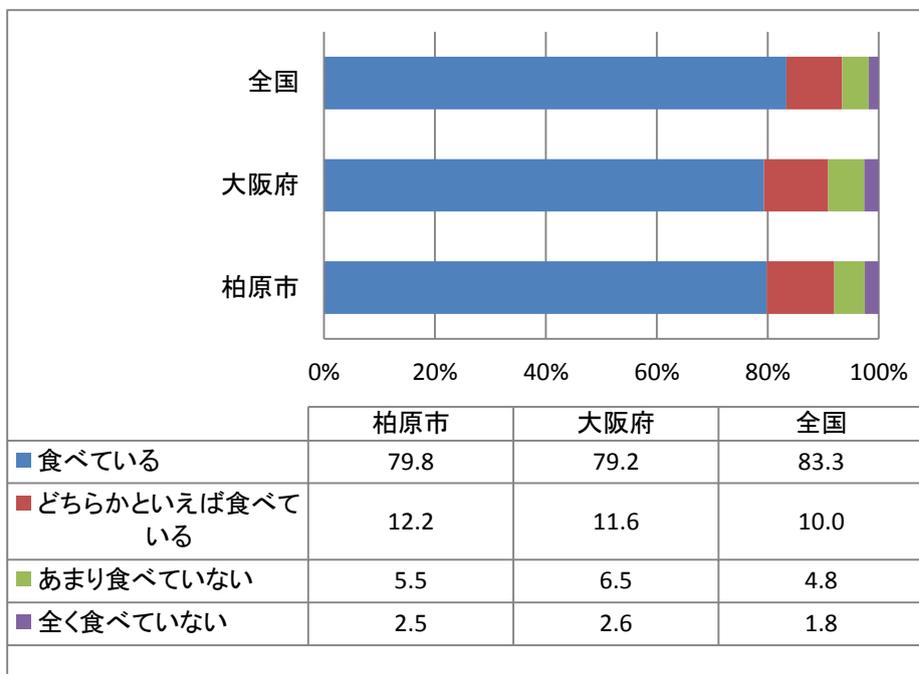
「朝食を毎日食べていますか」

小学生



朝食を食べている本市の児童の割合は全国より低く、大阪府と同じくらいです。朝食をとる習慣を定着させることが大切です。

中学生

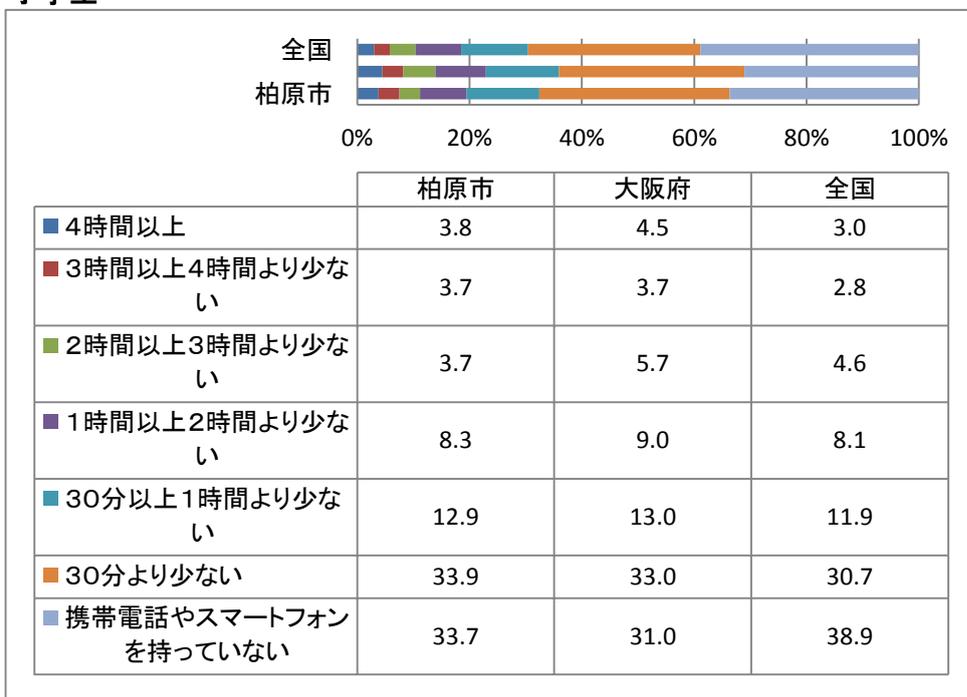


朝食を食べている本市の生徒の割合は全国より低く、大阪府と同じくらいです。朝食をとる習慣を定着させるが大切です。

②スマートフォン

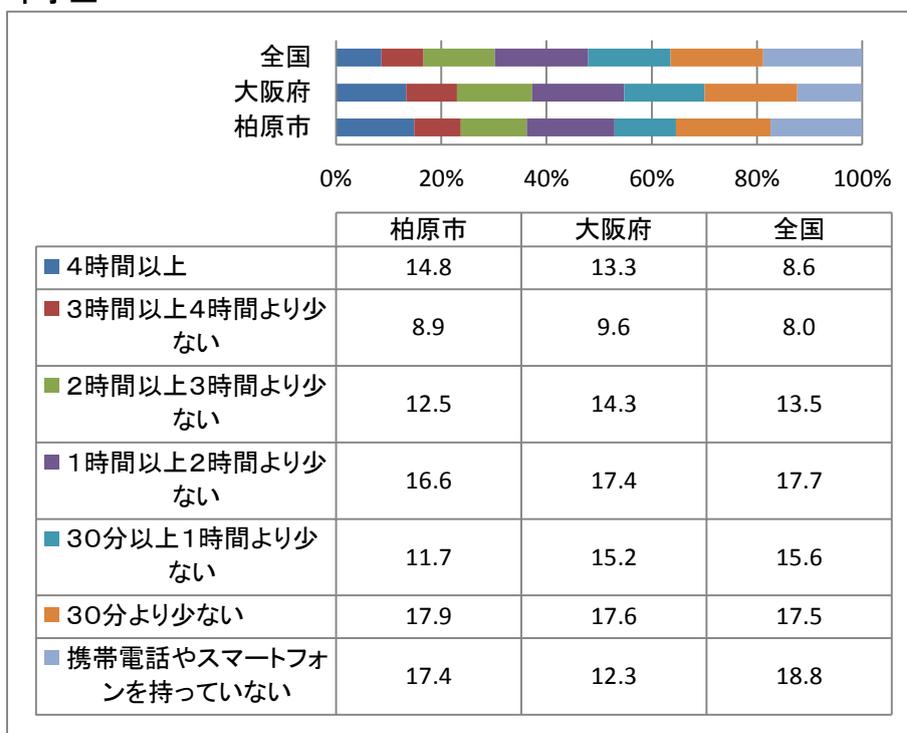
「普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます)」

小学生



携帯電話やスマートフォンを持っていない割合は大阪府や全国に比べ、少し多くなっています。一方では、約3分の1以上が30分以上使用しています。一定の使用ルールなどが必要です。

中学生

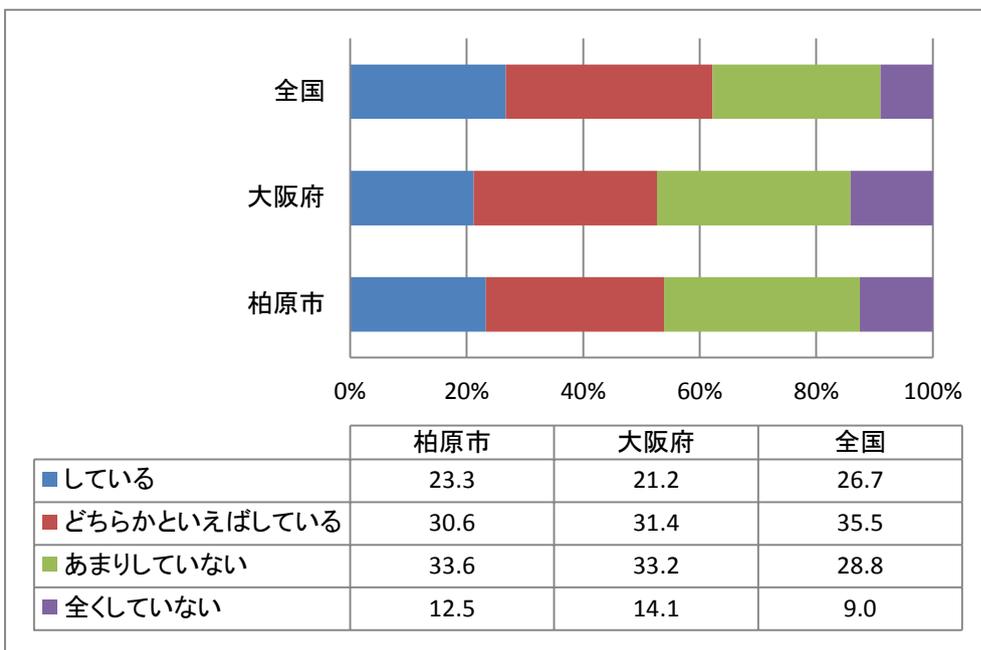


4時間以上使用している生徒の割合が、全国に比べ2倍近い値を示しており、顕著な差があります。また、5割以上の生徒が1時間以上使用していて、一定の使用ルールが必要です。

家庭学習、学習意欲の概要

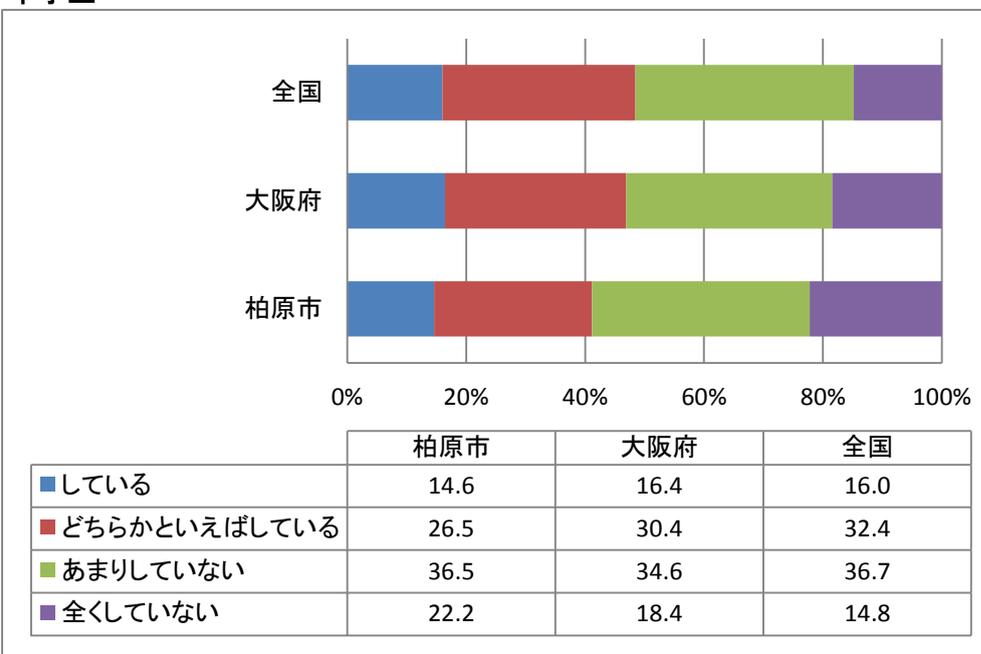
①学習計画 「自分で計画を立てて勉強をしますか」

小学生



自分で計画を立てて勉強していると肯定的に答えた本市児童の割合は、大阪府と同程度であります。全国に比べ約10%低い値を示しています。

中学生

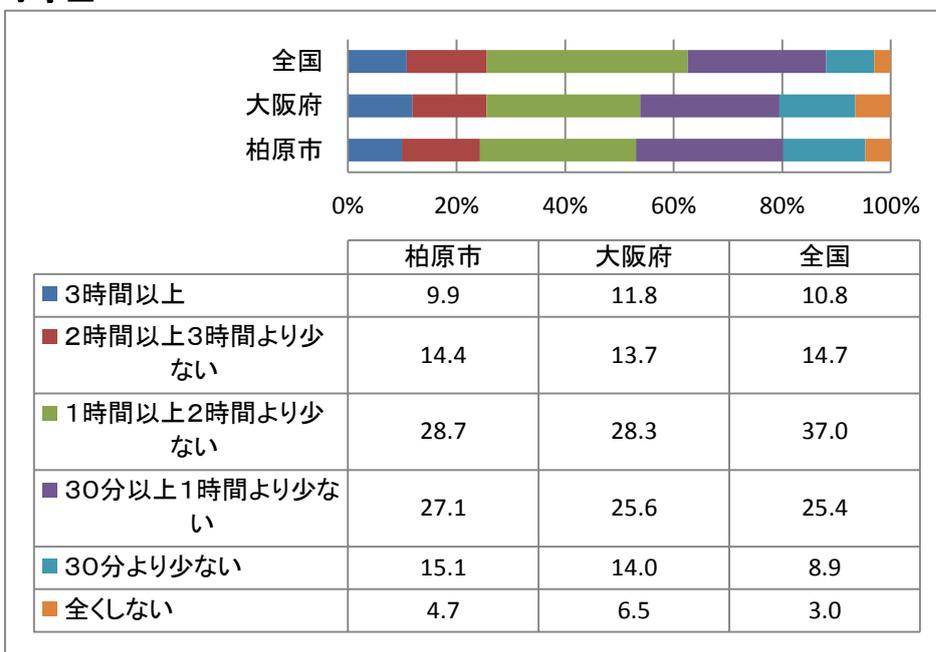


自分で計画を立てて勉強していると肯定的に答えた本市生徒の割合は、全国・大阪府を下回っています。全くしていない生徒の割合は、全国・大阪府に比べ高い値を示しています。計画的に学習することが課題であると言えます。

②家庭学習

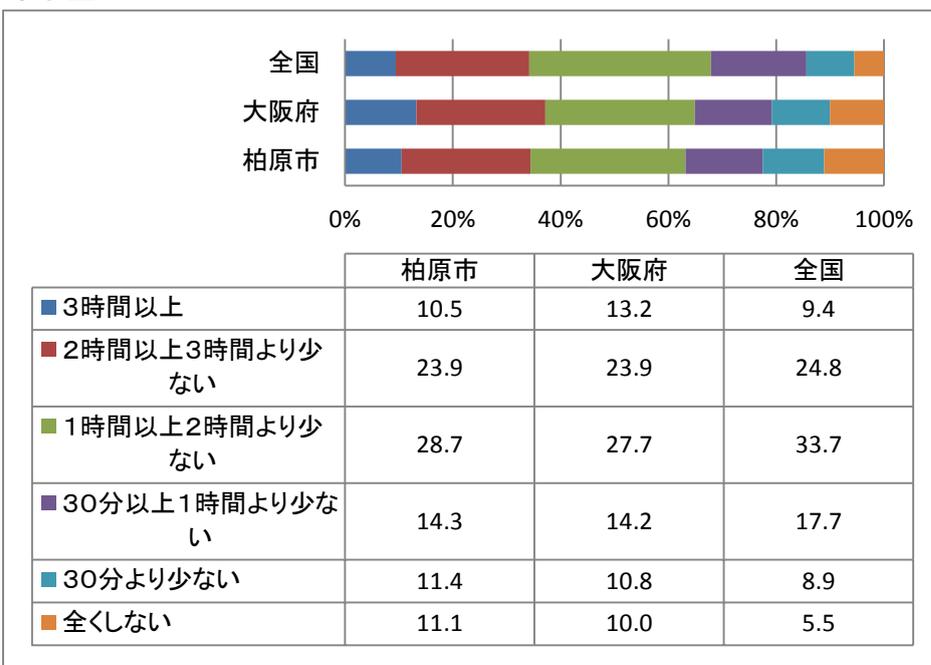
「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾や家庭教師含む)」

小学生



平日2時間以上家庭学習に取り組んでいる児童の割合は、全国・大阪府とほぼ同じ値です。しかし、1時間未満の学習にとどまる児童の割合は全国・大阪府より高くなっています。

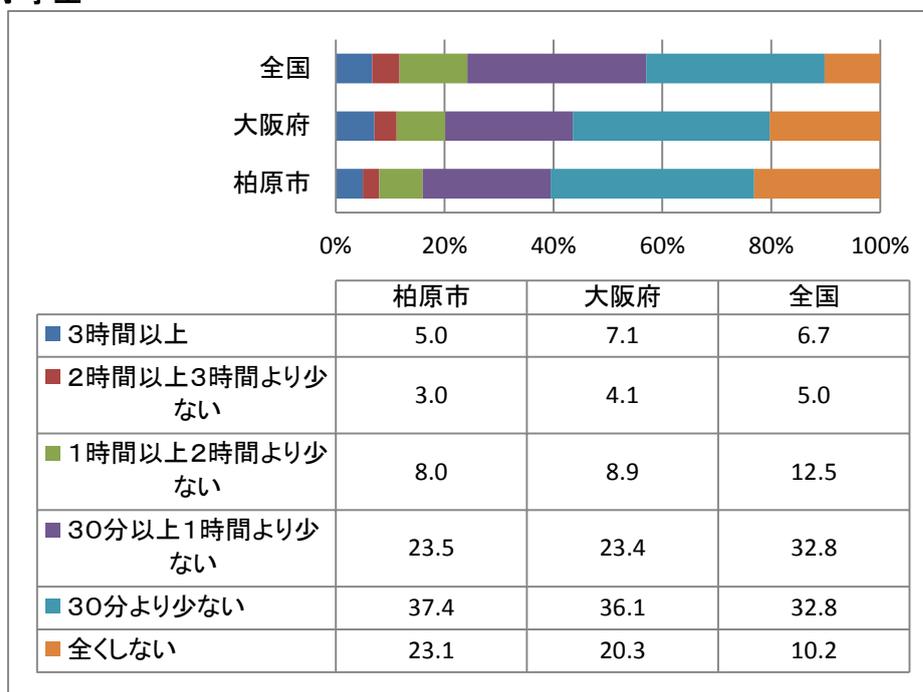
中学生



2時間以上家庭学習する生徒の割合は全国と同等です。一方で、1時間未満の割合は、全国・大阪府より多くなっています。家庭学習をする生徒とあまりしない生徒の差が大きいです。

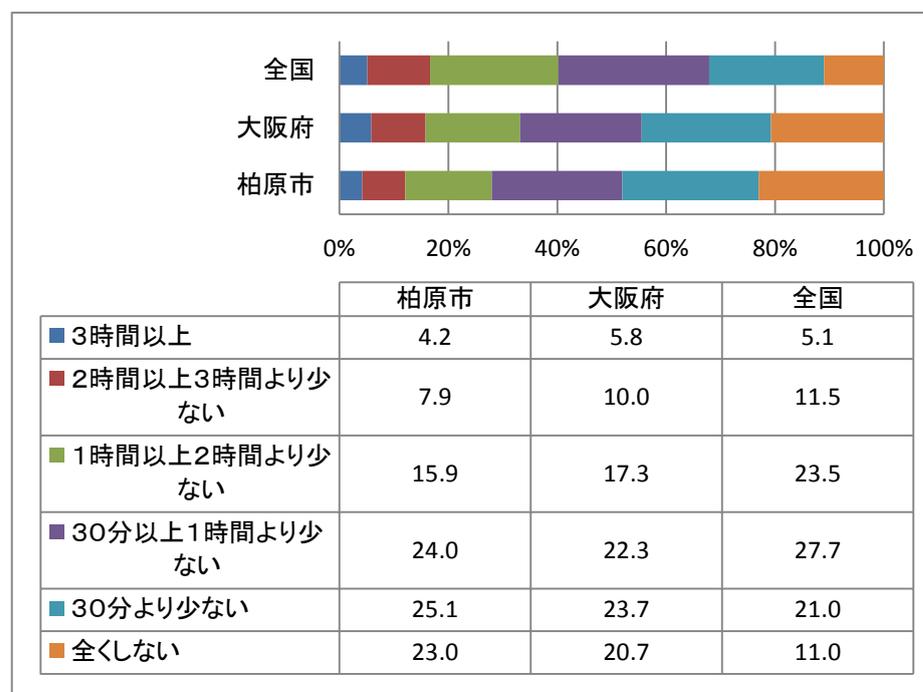
「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらい
の時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師含む)」

小学生



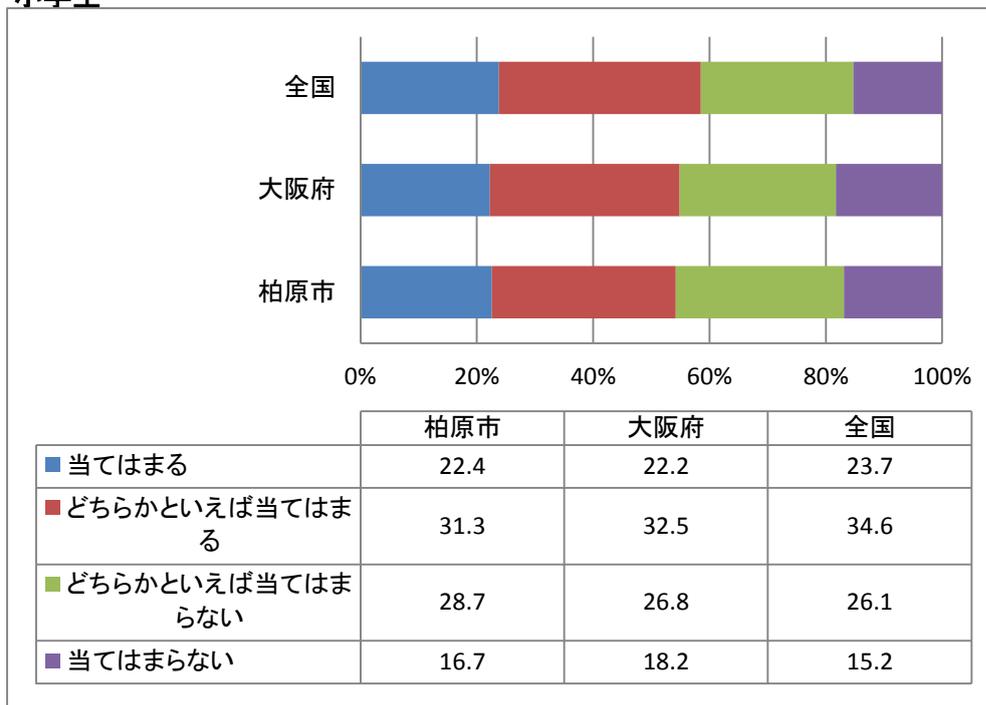
休日の家庭学習の時間が30分未満の児童の割合は、全国・大阪府に比べ多くなっていて、6割を越えます。

中学生



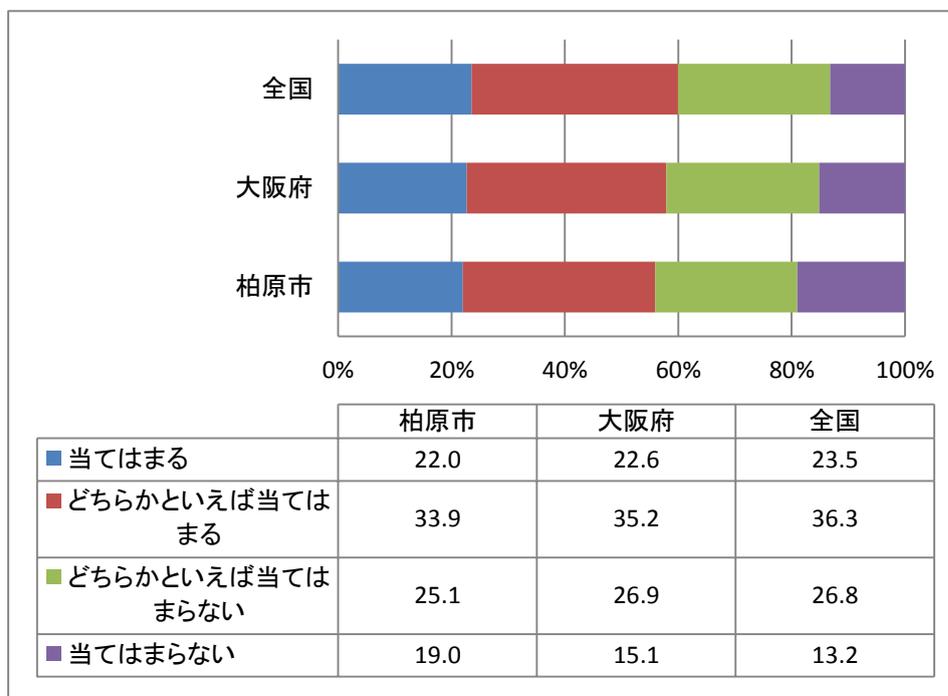
小学校と同様の傾向があり、5割近くの生徒が30分以上家庭学習をしていません。また、家庭学習を全くしない生徒の割合は、全国に比べ、倍以上の値になっています。

③学習意欲
「国語の勉強は好きですか。」
小学生



本市児童の国語に対する意識は、全国・大阪府と大きな差は見られませんが、全国に比べると、肯定的な回答をしている児童の割合がやや低くなっています。

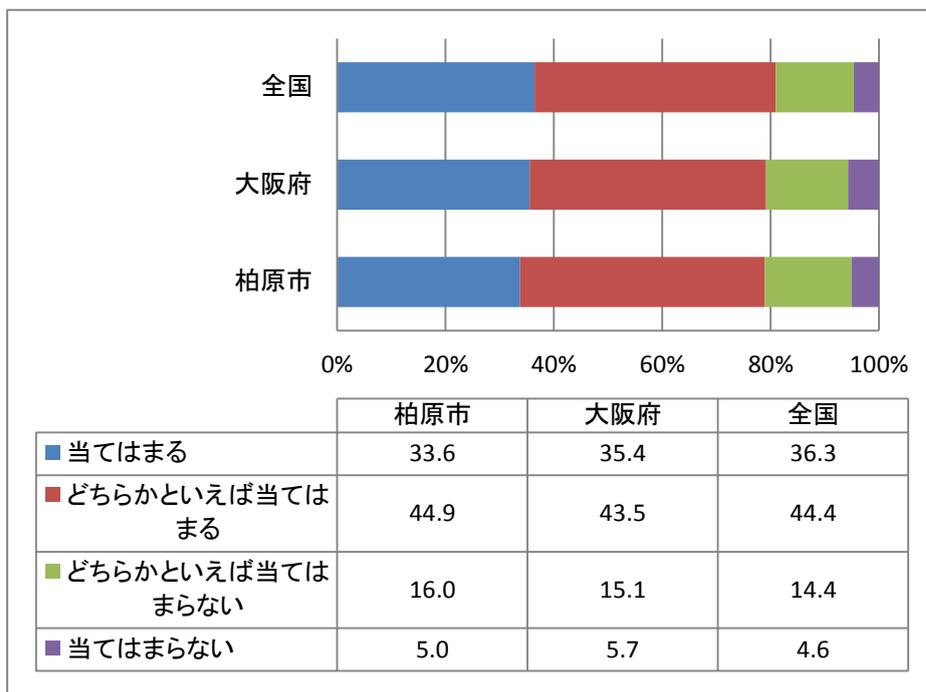
中学生



本市生徒の国語に対する意識は、全国・大阪府と大きな差は見られませんが、全国・大阪府に比べ、肯定的な回答をしている生徒の割合がやや低くなっています。

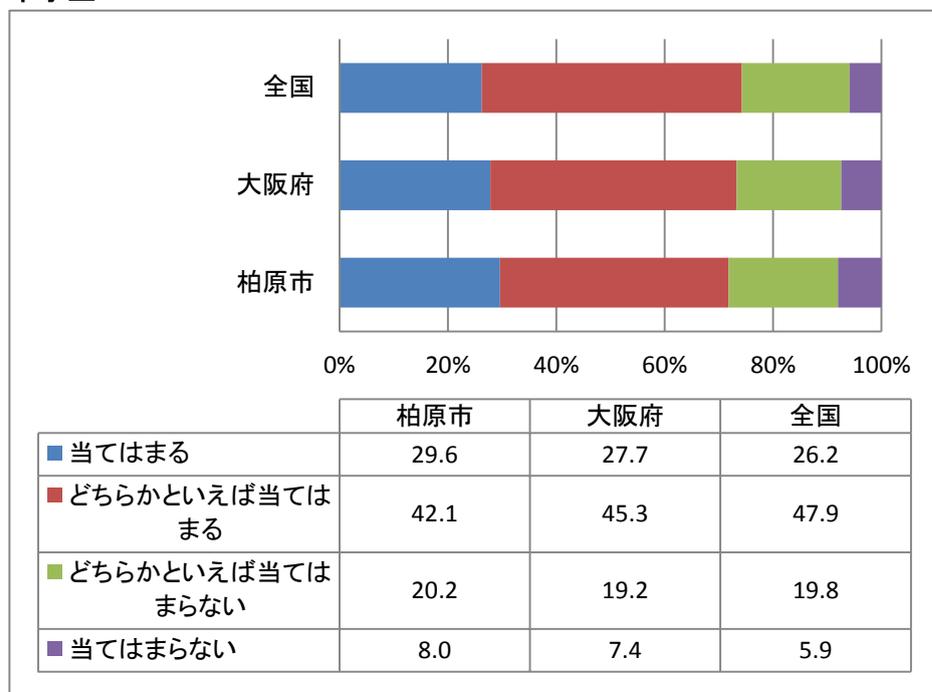
「国語の授業の内容はよく分かりますか」

小学生



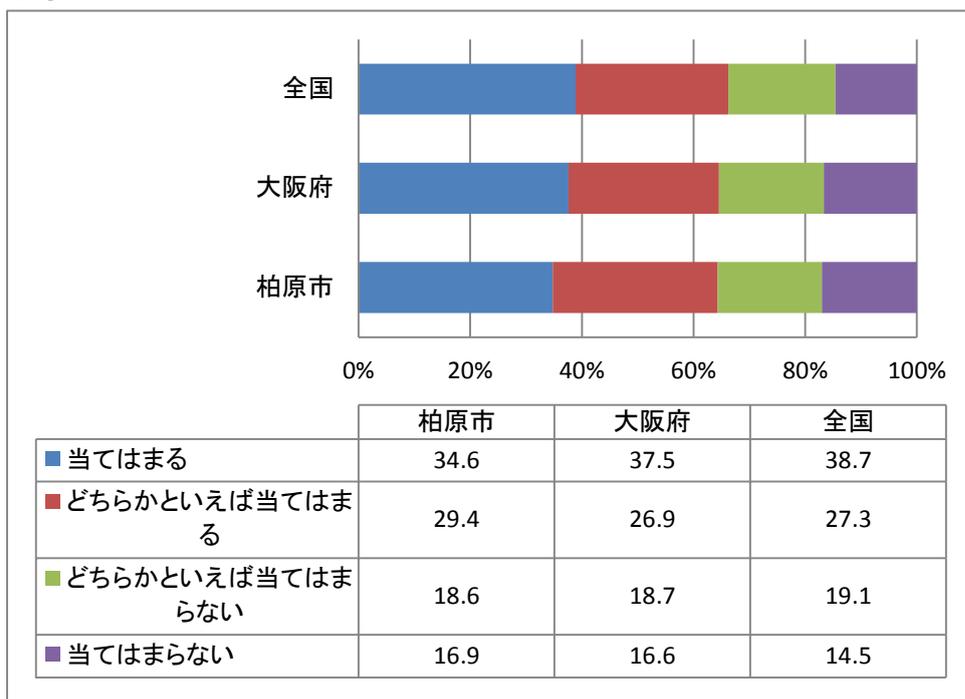
本市児童の国語の理解度は、全国・大阪府と大きな差は見られませんが、全国に比べると、肯定的な回答をしている児童の割合がやや低くなっています。

中学生



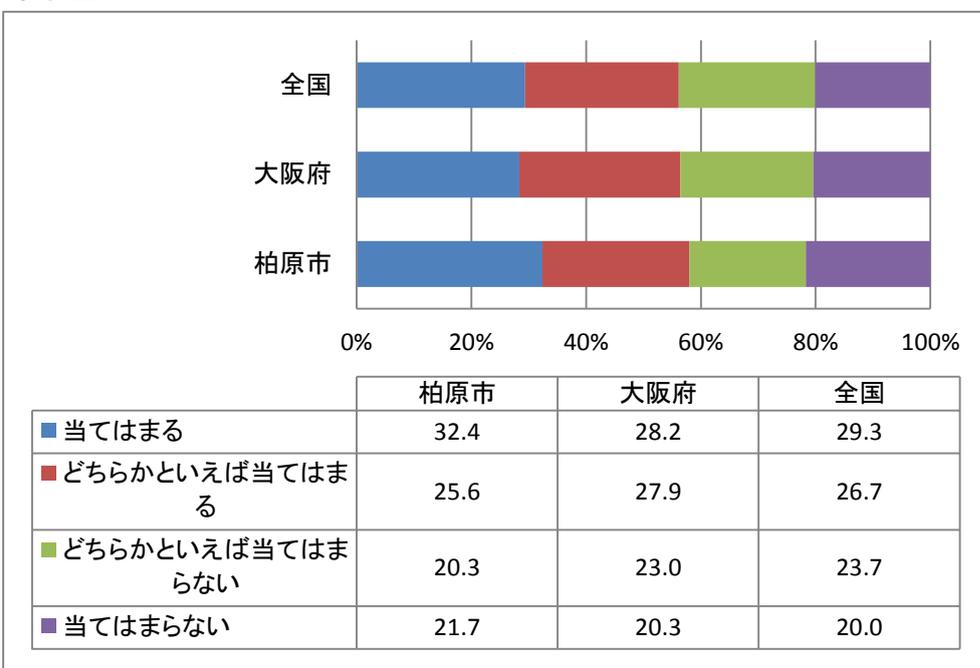
本市生徒の国語に対する理解度について、強い肯定を示している生徒の割合は全国・大阪府と比べて高くなっています。一方で、否定的な回答をしている児童の割合は、全国・大阪府に比べて多くなっています。

「算数・数学の勉強は好きですか。」 小学生



本市児童の算数に対する意識について、肯定的な回答をしている割合は6割をこえており、全国・大阪府と同等です。

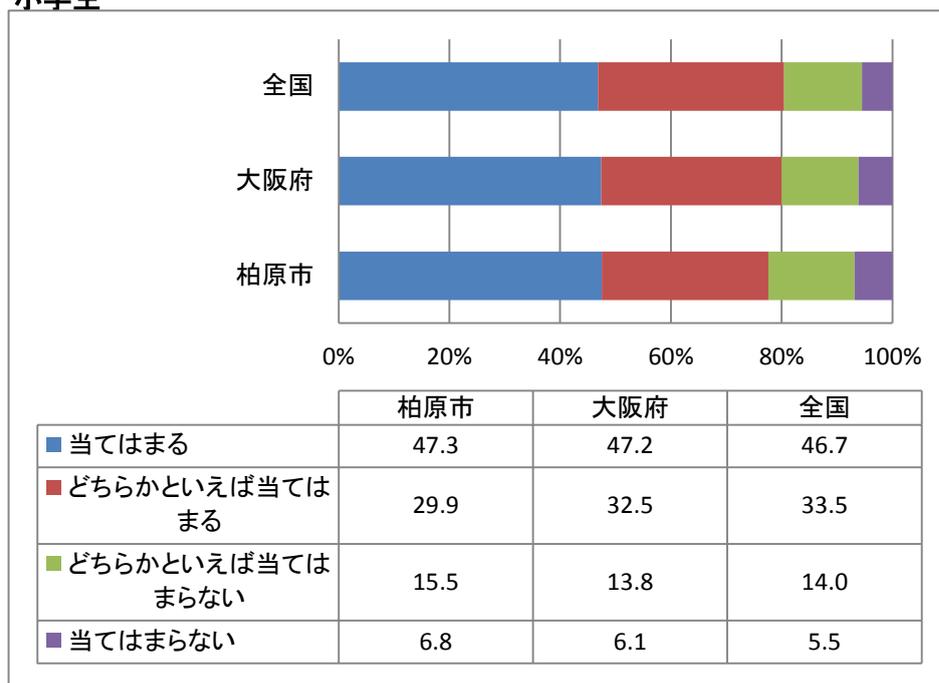
中学生



本市生徒の数学に対する意識について、肯定的な回答をしている割合は全国・大阪府を上回っています。

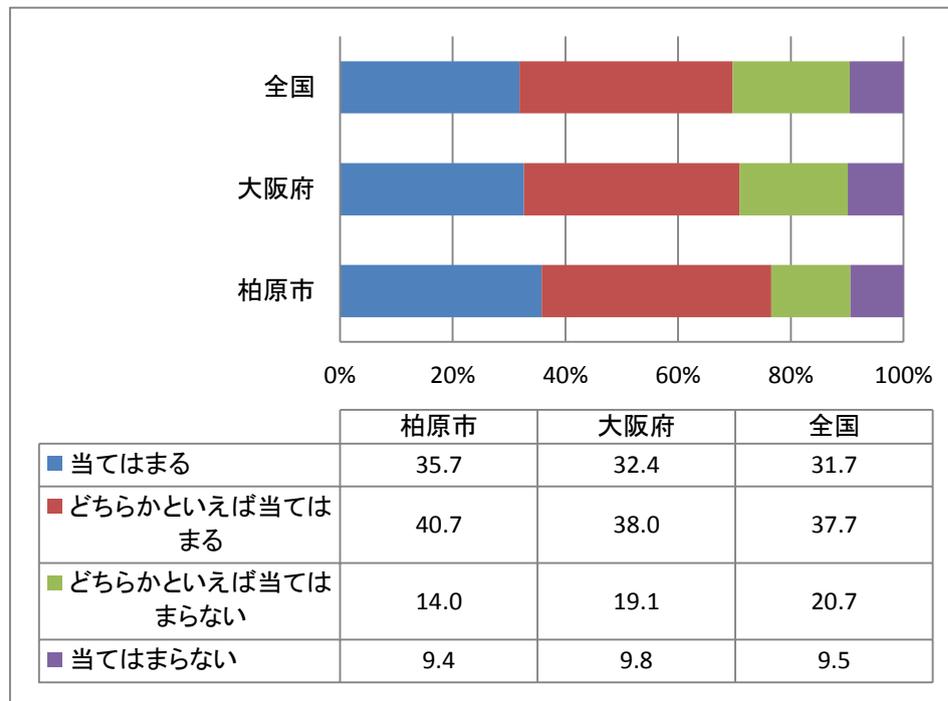
「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」

小学生



本市児童の算数に対する理解度について、8割弱が肯定的な回答をしましたが、全国・大阪府と比べると低くなっています。

中学生



本市生徒の数学に対する理解度について、肯定的な回答をしている割合は全国・大阪府を上回っています。